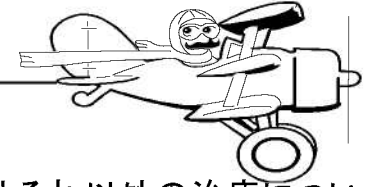


今回のテーマ

先進医療について②



前回先進医療の概要、重粒子線治療をご紹介いたしましたが今回はそれ以外の治療についてご案内いたします。がんの治療以外にも多くの先進医療があります。

<1>陽子線治療

放射線の一種である陽子線を病巣に照射することにより悪性腫瘍を治療する方法です。

メリット

「切らずに治す」事ができる！！ 体への負担は非常に軽い。

前回ご紹介した重粒子線との違い

重粒子線と陽子線を比べると、物質内での散乱が重粒子線の方が小さいため、がん組織とその周辺の正常組織に対する線量のコントラストを高めることができます。また、重粒子線は同じ物理線量の陽子線やその他の放射線と比べると、生物効果(細胞に対する影響)が大きいという特徴があります。重粒子線は同じ物理線量の陽子線やその他の放射線と比べると、生物効果(細胞に対する影響)が大きいという特徴があります。一方、重粒子線では核破砕反応のため、陽子線と比べて若干線量が大きくなります。

平均費用 2, 836, 789円

<2>センチネルリンパ節生検

がんの原発巣から最初に転移すると考えられるリンパ節を「センチネル(＝見張り)リンパ節」といい、それを摘出しがん転移の有無を顕微鏡下に確認する検査をセンチネルリンパ節生検といいます。

メリット

手術時(または手術前)にセンチネルリンパ節を生検し、転移がなければ残りの腋窩リンパ節にも転移がないという考えに基づき、リンパ節郭清を併施しない術式が普及し、これにより術後合併症の出現頻度を減少させることが可能となりました。

平均費用 37, 393円

<3>多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術

白内障の手術療法には、白濁した水晶体を眼内レンズに置換する方法(水晶体再建術)が用いられていますが、眼内レンズには、単焦点(ピントを一箇所に合わせる)のレンズが用いられることが多く、遠くを見たり近くを見たりする際の調節ができなくなり、生活に眼鏡が必須になります。しかし、置換する眼内レンズに、ピントを遠近両方に合わせた多焦点眼内レンズを用いることにより、白内障の治療を行うと同時に、遠方も近方もある程度自分の目で見るようになります。

白内障に係るものに限り先進医療特約の対象となります。

平均費用 350, 000円

今回紹介した先進医療は一例であり、先進医療は全額自己負担となります。**医療保険でこの先進医療の技術料を保障する保険もあります。**

具体的な相談に応じますので、お気軽に声をかけてみてください。